

VMとストレージを集約する

計算処理とストレージのサービスを単一のシステムで稼働させる事によって、従来のサーバー仮想化とストレージをなくしてしまおう、というのがベンダー数社によって喧伝されている集約型のアプローチだ。この考え方は使用可能な計算リソースの何パーセントかをストレージ処理のためにとっておき、残りの計算サイクルを仮想マシン（VM）に充てようというものだ。

単純化、低コスト、システム使用率の最大化が、VMとストレージを集約するメリットを提案する際の基本的根拠となる。VMとストレージを単一システムに集約した際に懸念されるのは、拡張性の制限とVMの処理がストレージに悪影響を与える可能性である。

「近い将来ストレージベンダーが、彼らのストレージコントローラ上で仮想マシンを動かしたとしても、もうそんなに驚かないでしょうね」

Enterprise Strategy Groupのシニア・アナリスト Mark Bowkerはこう語る。

Nutanix、Pivot3、Scale Computing and Simplivityなどのベンダーはみな、仮想化とストレージを集約したシステムを販売している。